

国指定史跡・向羽黒山城跡

所在地：福島県大沼郡会津美里町字船場地内ほか
史跡指定：平成13年8月7日 文部科学省告示第134号
指定面積：505,746.8㎡

城跡の立地

向羽黒山城跡は、町の東側を北流する阿賀川に沿って細長く平坦部に突き出している白鳳三山（観音山・羽黒山・岩崎山）の岩崎山全域と羽黒山の一部に位置しています。

城の変遷

各種の史料によると、蘆名盛氏が家督を子の盛興に譲り隠居して、永禄4年（1561年）、向羽黒山城を隠居城として築城し、同11年に完成したが、その後、天正2年（1574年）に盛興が亡くなったため盛氏は黒川城（当時、蘆名氏が政治の中心としていた城、現在の若松城のある場所）に戻り、向羽黒山城は廃城になったとされています。

しかしその後、伊達政宗が向羽黒山城に出かけていることを示す史料もあり、その頃の社会情勢からも蒲生氏郷、上杉景勝の時代も継続して機能していたと考えられています。

城郭史における意義

これまでの研究から、城郭史上における向羽黒山城跡の意義を簡単に説明しますと、戦国時代も末期になるにつれ、城の作り方も山の城から平地の城へと変わってくるのですが、向羽黒山城は逆に山城として発展してきました。

また、向羽黒山城跡は、規模・質ともに東北を代表する山城であり、保存状態が極めて良いことから発掘調査の実施などにより、東北地方の山城の特質や築城技術の変遷を解明するための有力な情報を有している史跡といっても過言ではありません。

蘆名盛氏とは

蘆名氏16代当主。大永元年（1521）生まれ。32歳で父盛舜より家督を相続すると、会津地方周縁の領主を服属させ、会津一円を治めました。さらに、盛氏は中通りの領主とも手を結び、東は現在の福島県郡山市周辺から西は新潟県東蒲原郡を領し、南東北において代表的な戦国大名となります。41歳のとき、向羽黒山城の築城に着工、その後8年の年月を費やして完成しました。その年、子盛興に家督に譲るも先立たれ、晩年まで蘆名氏を支えながら天正8年（1580）享年60歳で没します。

同年代の戦国大名：武田信玄（甲斐）・上杉謙信（越後）・北条氏康（相模）など。

向羽黒山城跡整備資料室（向羽黒ギャラリー）



展示室の様子

〒969-6116
福島県大沼郡会津美里町字瀬戸町3208番地5

■ 閉館日時

4月～12月中旬の土・日・祝日
午前10時～午後2時
※変更になる場合もあります。

向羽黒山城跡を紹介する施設です。向羽黒山城跡のこれまでの調査の状況や環境整備の状況を写真パネルで紹介・説明するとともに、山城跡のジオラマ模型や関連書籍も展示しています。また、山城を築城した蘆名盛氏をはじめとする蘆名氏の関連資料も紹介しています。

現地を見る前に見学することで、より深く理解を深めることができます。

アクセスのご案内



交通のご案内

- JR只見線 会津本郷駅下車 徒歩20分
- 会津鉄道 南若松駅下車 徒歩30分
- 会津バス 会津若松駅前より会津本郷行き約35分インフォメーションセンター前下車
- 磐越自動車道 新鶴スマートICより約20分
- 会津若松ICより約30分

お問い合わせ先

会津美里町郷土資料館 さとりあ
会津美里町教育委員会生涯学習課文化係

〒969-6292 福島県大沼郡会津美里町鶴野辺字広町740番地
TEL 0242-79-1900 FAX 0242-78-2400

東北最大級の山城跡

向羽黒山城跡

国指定史跡

むかいはぐるやまじょうあと

続日本百名城選定



向羽黒山城跡全景

福島県大沼郡会津美里町教育委員会

会津美里町の関連文化財群 向羽黒山城周辺に残る中世会津の風景

〈対象となる主な集落等〉

本郷・大石・大門・相川・三日町を中心として、本町全域

〈主な特徴〉

中世の山城である向羽黒山城跡を中心として、町内には多くの城館跡が残ります。また、関係する寺社も多く、会津美里町では中世会津の風景を見ることができます。

〈主な関連文化財〉



左下り観音堂

創建時期は鎌倉時代と推定される懸造りの観音堂。現在の堂は江戸時代に改修されました。県指定重要文化財。

木造聖徳太子立像(三日町太子堂)

鎌倉時代に造られた聖徳太子像。手に蓮華、経巻を持つが、経巻を持つ姿は珍しい。県指定重要文化財。

高田館跡

15～16世紀まで使用されていたと考えられる館跡で、周辺には同時期の館跡や寺院の遺跡が多くあることから、中世において、この場所が会津盆地南西部の重要な拠点であったと考えられます。



宗願町の由来

向羽黒山城を築いた蘆名盛氏のおかかえ医師・糟尾宗願が屋敷を賜ったことから、この名がついたといわれています。

木造薬師如来坐像(鳳来寺)

鎌倉時代の作と推定される薬師如来。一木造で頭部から体軀、脚部と重厚な造りで表現されている。県指定重要文化財。

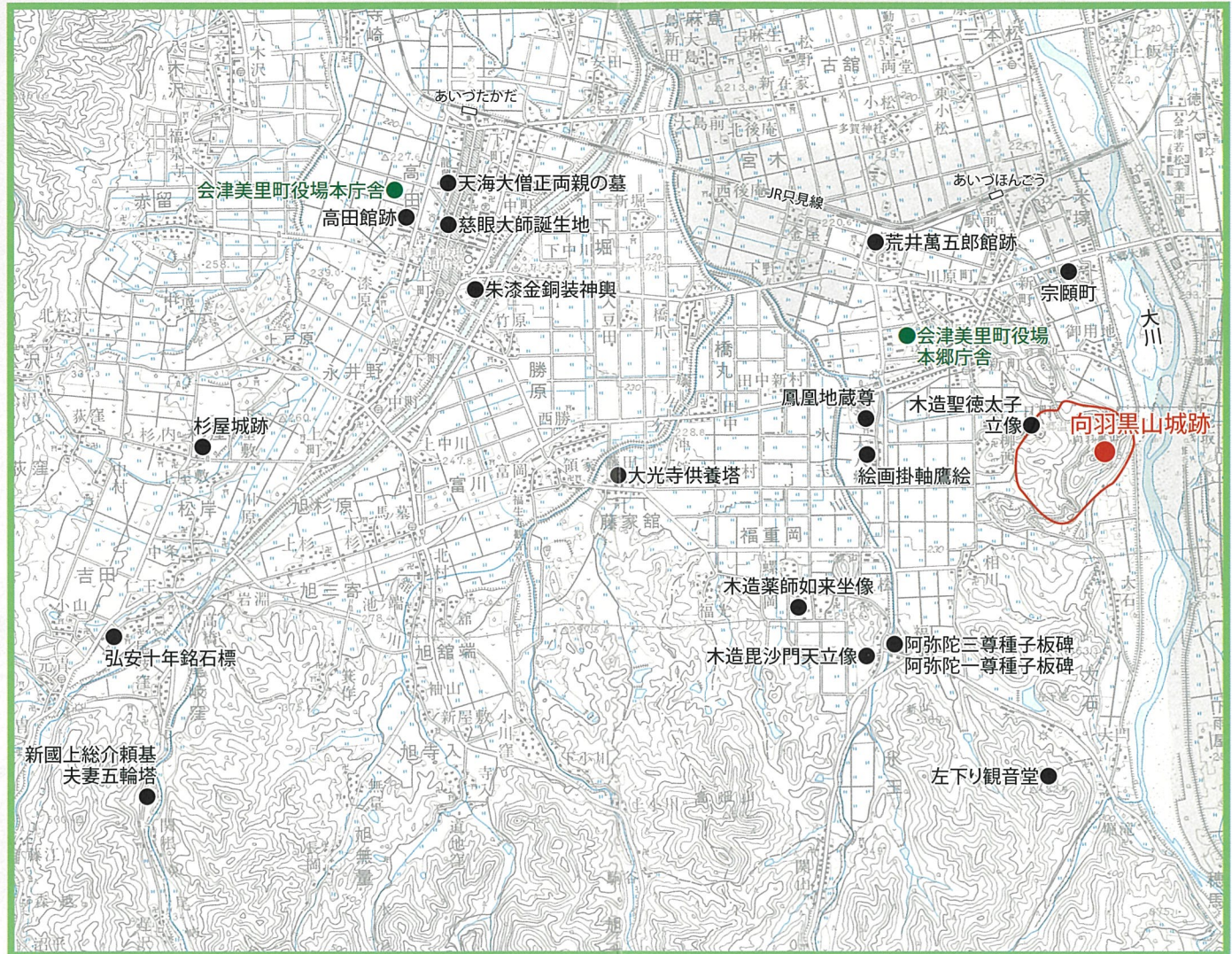
会津美里町では、平成30年度に「会津美里町歴史文化基本構想」を策定しました。

ここでは、町内の文化財が直面する課題を見直し、今後どのように保存・活用していくかという方向性を示しています。

文化財の保存・活用にあたっては、町の歴史文化の特色を把握し、「関連文化財群」(特色を示す、指定及び指定されていない文化財を含めた関連する文化財の集まり)を定めました。

〈会津美里町の特色を示す7つの関連文化財〉

関連文化財	主な集落等
仏都会津とまほろばの里	新屋敷・根岸・米沢・雀林・八木沢・赤留周辺
伊佐須美神社を中心とした会津文化発祥の地	高田・永井野 周辺
向羽黒山城跡周辺に残る中世会津の風景	本郷・大石・大門・相川・三日町を中心として本町全域
会津本郷焼の産地	本郷・柳西
街道・連絡路と水運による文化・経済の交流	本町の西南縁
幕府領と会津藩領のはざまとして	高田地域
生業と深く結びついた民俗文化財	本町全域



【注意】お寺やお堂への参拝は自由ですが、通常、仏像等の拝観はできません。

案内図

向羽黒山城跡は永禄4年(1561)から同11年にかけて築かれた山城であり、山の中には数多くの削平地(曲輪)、土塁、空堀、堀切、虎口(出入口)などが存在し、山城の形態が良好な状態で残されています。

2024年の新しい成果 New

2024年度の環境整備事業で、新たに道跡と石列が確認されました。確認された場所は、二曲輪と三曲輪を結ぶ遊歩道から少し離れたところにあり、遊歩道が設けられたことに伴い、元の道筋が分からなくなっていたものと推定されます。また道に沿った土盛りの裾には石列が築かれており、道と石列の組み合わせは、城内の他の箇所でも確認されています。新たな遺構の確認により、向羽黒山城跡の当時の状況の手掛かりを得ることができました。



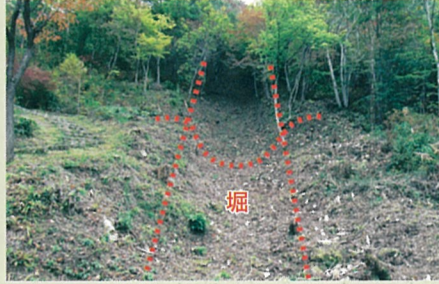
しろみち にくるわ
①城道(二曲輪)

地形確認調査により一曲輪と二曲輪を結ぶ城道のルートと地形が確認されました。



いしづみ にくるわ
②石積(二曲輪)

二曲輪にある石積です。本格的な石垣ではありませんが、城内にはこのような石積がほかにも確認されています。



たてぼり いちのくるわ
③豎堀(一曲輪)

一曲輪へ上る遊歩道の脇には巨大な豎堀があり、その大きさを実感できます。



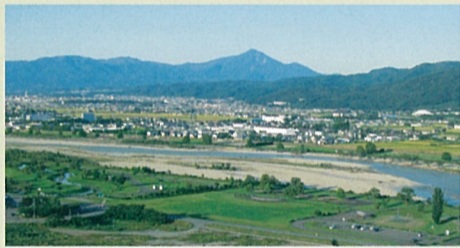
ほり どのい いちのくるわ
④堀と土塁(一曲輪)

堀から排出される土を盛り上げて土塁とすることで、大きな高低差が生まれます。このような手法はよく用いられていたようです。



こぐち にくるわ
⑤虎口(二曲輪)

二曲輪中枢部に上がるところにある虎口で、石を多用し、来る者を威嚇するような雰囲気です。



おちゃやぼくわ
⑥御茶屋場曲輪より

御茶屋場曲輪は蘆名盛氏が茶の湯をやっていた場所と伝えられています。天気の良い日は遠く磐梯山も望めます。



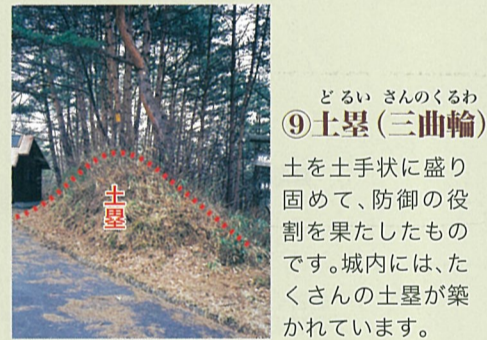
きたぐるわ
⑦北曲輪

土塁と堀に囲まれており、内部は三段に造成されています。試掘調査の結果から、未完成である可能性があります。



おおてぐち
⑧大手口

この城へ入る最初の大きな虎口(出入口)です。土塁に囲まれ、この城の中では最大のもので、枡形になっています。



どのい さんのくるわ
⑨土塁(三曲輪)

土を土手状に盛り固めて、防御の役割を果たしたものです。城内には、たくさんの土塁が築かれています。



ほり にくるわ さんのくるわ
⑩堀(二曲輪・三曲輪)

二曲輪と三曲輪を分ける、この城の中で最大の堀です。このほかにも、城内には数多くの堀が築かれました。

史跡整備状況 ※城跡の状況が見て分かるように遺構表示板の設置等を進めています。



しろみちあと
⑪城道跡

一曲輪と二曲輪を結んでいたと思われる城道にはウッドチップを敷き、遺構表示板を設置しました。



ほりあと
⑫堀跡

一曲輪地区にある堀跡で、両サイドが高く、堀底は細いうえに狭く作られ、山城の雰囲気を感じることができます。



そせきたてものあと
⑬礎石建物跡

一曲輪地区にある平場では川原石を用いた多数の礎石を確認し、建物が存在していたことが分かりました。



いこうひょうじばん
⑭遺構表示板

見学の際に分かりやすいように遺構表示板を設置しています。